

# ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第32号 平成25年9月29日

6与四死球と2安打では勝利は掴めません・・・

悔いが残る3回の攻撃・・・

	1	2	3	4	5	6	7	R
D	2	0	0	1	2	2		7
G	0	0	0	0	2	0		2



9/29(日) Victoria対ナイト3回戦を俣野公園野球場にて、ドリームスターズと対戦した。雨天により、当大会の日程が逼迫している事から、ゲームが連戦となっているが、そこは、チーム一丸勝利を目指したいものである。さて、今日の先発は光希がマウンドに上がり、プレイボールとなった。しかし、二球目を一二塁間を抜かれ、その後、きっちり次打者に犠打で送られ、一死二塁とスコアリングポジションに走者を進めた。そして相手三番打者に三遊間を抜かれ、一挙二塁より走者がホームインし、早くも失点を許した。しかし、後続は空三振に斬り二死としたが、次打者には右中間を抜かれ、こらまたホームインを許し、初回より2点を追う展開となった。しかし、その裏、先頭哲也が四球を選択し出塁、そして二番が送りバントぎみの投ゴロで走者を二塁に進める。続く祐太朗の打球は、強烈な一塁正面のゴロ、これが左右どちらかに数cmずれていたら、二塁より哲也がホームインしていたであろう打球、そして最近あたっている昌平は四球で出塁、しかし、次打者が凡打に倒れ、この回のチャンスを逸した。そして、3回の攻撃に入る。この回先頭のジローがレフト前ヒットで出塁、次打席に哲也が入る。この哲也の打席の時に、WPでジローが劣せず二塁へ進塁、ならここは、きっちり犠打かと思ったが、策は強行策、が、結果は最悪な三振に倒れ走者を進められず、そして、二番打者の時に捕手が若干こぼしたのを見て、三塁へ進塁したが、捕手からサードへきっちり送球され、サードホースアウトで二死、後続も倒れ、結果先頭が出塁したにも関わらず、策無く0点に終わった。こうなると、ゲームの展開は相手に移るもの。無安打2失策、2四球で1点を失点し、その差は3点と広がった。更に5回には、四球で出した走者を7番打者がレフト線にRHを放ちこの回2点を失点し、5点差となり、回から来るダメージはかなりのものになった。が、その裏の攻撃、相手二番手の投手が突如制球を乱す。3四球と2つのWPで2点を頂いたが、適時打が無く、それ以上は無し。翌回にも四球と2本の長打で2点を失点し、このゲームを落し、今期のVictoriaの大会を終える事となった。

振り返ってみると、やはり3回の攻撃だろう。きっちり三塁まで進める事ができていれば、WPでも得点は挙げられるし、何かが起きる。また、そこでの得点は、ゲームの流れを呼び込む事が大きく出来る・出来たはずだ。やはり、点が欲しい時は、きっちり、という言葉がセオリーだろう。また、投手に関しても、再三申し上げているが、奪三振の多さより、無四球の方が魅力で有る事を再度実感してほしい。投打が噛み合う、という表現が有るが、まさに今日のゲームは投打の噛み合いが無かったゲームと感じた。まー、うちが敗戦する時の一般的な結果である。